

ぼくのふるさと

山本壮悟

「あんだ大西の子か？」
と、聞かれたことがある。ぼくの名字は、山
本だから、人ちがいだろうと思ったら、その
おばさんは、
「ちやうわ、その家の子やったら大西や」
と、言うので、ぼくはますます分からなくな
った。おばあちゃんは松岡だからだ。だから、
おばあちゃんに聞いてみた。おばあちゃんの
話はこうだ。

「松岡」

ち、おこじた。三人息子の一人が辻川の東に
もう一人が西に家をつくり、そしてのこりは
辻川の外に出て行ったのだ。だから名字とは
別に屋号があつて、「大東」と「大西」があ
るのだ。大東は、辻川の東にあつて、大西は
辻川の西にあるのだ。同じ松岡だから、東と
西におけたのだらうか？おもしろいことちや
えたことだ。

おばあちゃんの家の前は、銀の馬車道に、面

している。銀の馬車道とは、正式名称を生野
鉾山寮馬車道と言っていた。生野鉾山から
磨港まで続く約49kmの今で言う高速道路のよ
うなものだ。そして今はなくなってしまった
けれど、何でもそろそろ松岡百貨店があつた。
お母さんは、えっしやんと呼ばれるその店で、
ぶんぼうぐかせいぶくを買に行つたり、竹
ぼうきか風船と、本当に、何でも売つてあつた
そうだ。ぼくは、すごいと思つた。そこから
馬車道は、古いけれどおしやね昔の郵便局

や土の壁がのこる大庄屋三木家の方へのびる。
柳田國男先生は、この三木家でたくさんの本
を読ませてもらった。たそうだ。ぼくは、たいて
い馬車道からより、一つ手前の鈴の露酒店の
角で、左に曲がつてから、辻川山に向かう。
大好きな屋台倉があるからだ。毎年の秋にな
つたら、ぼくは、のりこだから辻川屋台にの
つてたいことをたたくします。そこから、坂を上
がって、昔の登記所のそばを通り、鈴ヶ木神
社に、行く。ここは、ぼくのおまじりの場

所だ。大きな山桃の木があつて実があつてい
 るのが見える。高すきとれないと、町内最
 大のこの木は、古くさかほりがある。古いので、
 大切に守つてあげないといけな。木の周り
 ちもつときれいにしたいけれど、木も傷めてし
 まいそう少しこあり気もする。鈴ヶ木神社
 には、こま犬がいて岡男先生は小さい時、こ
 ま犬のつて遊んでいたそうだ。ぼくももも
 しかしたら、小さい時にのせてもらつた。た
 な気がする。そこから歴史民俗資料館まです

ぐ近くだ。ふかふか緑のユケの道と木のトン
 ネルを通つて旧神崎郡役所に行ける。明治時
 代に建てられたリシャ建築様式のこの建物
 は、とてもきれいで外国のお景しきみたいだ。
 この中には、古い道具や化石が展示してあ
 る。そこ石器らしいものもかん定してもら
 た事がある。結局ちがったけれど先生は、
 つめずらしいものがあつたら、いつでも見け
 に来てね。
 と、優しく言つて下さつた。

柳田國男の生家は、かやぶきの小さな家で
 田の字型土になっている。先生は、この家
 ぢ日本一小さい家土と言われている。だけ
 どもぼくは、そんなじ小さくないと思う。ぼく
 のマンションの部屋の方がずつと小さく感じ
 る。説明を見ると、ここで十一人でくらして
 いたからとてもせまく感じたんだと思った。
 先生のお弟子さんの話もおはさんが覚えてい
 て、先生の事を教えてくれた。先生は冗談が
 好きで、ご自分の家もユーモアをこめて、そ
 うお話しになられていたという。そして、お
 弟子さんが分からない事があって先生に聞き
 にくくと、必ず
 千葉君は、この本をもう読みましたか。
 と聞かれたそうだった。
 「先生、まだ読んでいません。
 と答えると、
 「では読んでもかまいませんし、
 と言われたそうだった。お弟子さんがその本を讀
 むと知りたい事やその手加かりが書かれています。

て、柳田先生はどれかけたくさんの本を讀ま
 れて、覚えていらっしやるのだらう、と感心
 したという。そしてお弟子さんは、先生は自
 分で調べて答えも求める努力をする大切さも
 教えて下さったと話されたそうだった。それも聞
 いてぼくは、それをおれたらいいなと思った。
 また、先生はなぜ民が貧しいたままなのか
 も考えられたという。そして民は知識がないか
 ら貧しいのだ。魚つりの道具があっても、魚
 つりのやり方を知らなければ、魚はとれな
 だから、民にも知識が必要なのだ、と言わ
 れたという。ぼくは、なぜ貧しいのかなんて
 考えた事はなかったけれど、深く考えるとい
 うのは、元から解決する方法を探ることなの
 かも知れない、と思った。
 ぼくは、辻川が好きだ。お父さんとサッ
 ーも教えてもらった。辻川山のグラウンド。秋
 祭りでは声をあらしめて太この練習をした屋台
 倉。葉っぱを流して遊んだ雲津川。お父さんと
 と市川も逆上り、たじり着いた山の池。すべ

てがぼくのふるさとだ。今ぼくは子供でこ
 で住んでいるけれど、いつか近川をなれる
 時があってもきっとともどつてくる。柳田先生
 の歌はぼく達みんなの歌だ。

ラズすなの木のやまもも

こま犬は懐しきかな

もの言はおとも

柳田国男

山本壮悟

西の子か？」

ことがある。ぼくの名字は、山
ちがいだらうと思ったら、その

そこの家の子やったら大西や。

ぼくはますます分からなくな

ちや人は松岡だからだ。だから、

に聞いてみた。おばあちゃんの

赤松則村の一族がやってきて、

三人息子の一人が辻川の東に

に家をつくり、そしてのこりは

て行ったのだ。だから名字とは

て、大東と大西があ

は、辻川の東にあつて、大西は

るのだ。同じ松岡だから、東と

たらうか？おもしろいことと考

人の家の前は、銀の馬車道に、面

アピカ 20×20

福崎町柳田國男ふるさと賞出品票

学校名	田原小学校	学年	5年
ふりがな 氏名	山本壮悟	番号	17
題名	しまのふるさと		
内容	自分のふるさと		